

りれ一随筆 ⑦③

助産婦(青森県青森市)

溝江好恵

春日井六実さん、ご紹介下さいまして本当にありがとうございました。

私は、新しいカタチの助産院を開設したく、春日井さんの「マタニティー・アイ助産院」を見学させていただきました。私は現在、11月開院を目指してフル回転しております。ステキな助産院をご存知の方、是非私にご紹介下さい。良いところは、全て吸収したいと思っています。

まわりを見つめ、自らを見つめ

私が助産院を開きたいと考えはじめたのは、助産婦学生の頃からです。青森県の母子保健の水準は全国的にみて低く、特に乳児死亡率、新生児死亡率、周産期死亡率は、例年ワーストセブンの中に名を連ねています。

私の育った青森、私の好きな青森に住む人々の現状を知るにつれ、「このままではいけない、少しでも改善していかなければ」と、思うようになりました。

「助産婦は今、何をしているのだろう。助産婦として私は、何をしなければならないのだろう。私に何ができるのだろう」と、自問自答を繰り返していました。私1人の力は微力でも、青森県に住む助産婦がみんなで力を合わせたら、きっと何かが変わるのではないか、そんな思いを胸に温めつづけてきました。

看護学生だった頃、私は医学概論の講義で、「医の真髄は臨床にあり」と学びました。

ある日、自らを看護研究家と名乗り、青森県の保健医療の向上を願って日々活動していらっしゃる、花田ミキ先生と出会いました。

また、津軽を愛し、津軽に働く人々を愛し続けた医師、津川武一先生を知りました。

そして、教授として多忙な職務の中、青森県の母子保健に御心を砕き、また私たち助産婦と助産婦学生をこよなく愛して下さった、品川信

良先生に御指導を受けることができました。

地域医療従事者の「真の姿」を教えて下さった成田俊策先生、その他にも、新道幸恵先生、藤田八千代先生、山西みな子先生、お会いできて、私はしあわせでした。ありがとうございました。

私は素晴らしい人生の先輩方にめぐり会い、一粒の「種」をいただいたようです。私は、その「種」をたんせい込めて育て、芽をふかせ、花を咲かせ、できれば実を結ばせたいと思います。花は人の心をなごませ、実は命の源となります。たった一粒の「種」にも、そのような力が秘められています。私はそんな助産婦になりたいと思います。

妊婦さんに学び、産婦さんに気付かされ、褥婦さんにさとされ、かたわらにいる私は、彼女らにとって最良の助言者でもある——私は今までそうありたいと努力し、仕事を続けてきました。ですが、今ひとつ、人との絆が深まらないもどかしさを感じていました。

青森県の母子保健の現状を改善していくためには、まず母親となる人たちの意識を変えていかなければならないと思います。そのためには、相互の信頼関係が必要です。信頼関係、すなわち太い絆をつくるためには——

まず第1に、妊婦さんに助産婦を選ぶ権利を

今、は、い、ざ、く、時

委ねることです。そして、選ばれる助産婦になりましょう。

第2に、必要とされた時には、どんな時でも対応することです。完全受持ち制です。「頼りになる助産婦」が必要です。

単純なことなのですが、この2つを、今の施設内分娩に求めることができないのです。そこで私は、助産院という場で実践していこうと考えています。

地域の産婆さん

妊婦健診、母親学級、分娩、育児指導、授乳指導と、幾度も接していくうちに、助産婦と妊産婦相互間に良い人間関係が生まれます。それからが私たち助産婦の次の課題だと思います。

つまり、助産婦は「女性のライフサイクルの全て」において助言できる、スペシャリストであるべきだということです。

たとえば、避妊の相談、一歩踏み込んで夫婦生活の悩みを女性は誰に相談するのでしょうか。子供の性器いじりをどう受けとめますか。初潮や夢精について、お子さんにうまく説明できますか。中学生や高校生のセックスに対する興味や悩みにどのように対応しますか。親として、自分の子供への性教育を考えたことがありますか。

「更年期の時期なのかしら、この頃なんだか体がパッとしないんだけど、病院に行く程でもないし……」など、そんな悩みを相談できる場所が地域にあってもよいとは思いませんか。助産婦としての活動を、そこまで広げてみてはどうでしょうか。

「中学生・高校生の中絶を減らすために、『人を愛することのすばらしさと責任の重さ』について本音で話し合います。高校生のお子さんと親御さんは是非討論に参加して下さい」。こんな内容のちらしを地域の回覧板で回して、人が集まってくる時代を実現していきたいと思います。

立ちあがれ、助産婦

また、青森県の母子保健全般を改善していくためには、多くの助産婦の意識をも改善していかなければなりません。一部の方のお話では、新卒の助産婦の多くは、仕事の楽な、高給取りになりたいと望んでいるそうです。

ですが、私は、魅力ある職場で、魅力ある助産婦が働いているのを見たら、若い助産婦たちも、仕事に対する意欲がわいてくるのではないかと、大いに期待をしています。

そして、いつか必ず青森に「悩める助産婦の会」をつくって助産婦が手を結び、青森県を変える原動力にしていきたいと思っています。

* * *

つたない文章で、私のこの「思い」が、皆さんに伝わりましたでしょうか。次回は、私がリレーする方が、「もう1つの思い」を、皆さんにお伝えすることと思います。

昨年9月、青森市に助産院を開業しました松江喜美代さんです。松江さんは、乳房マッサージや保健指導を中心に、助産婦として地域活動をしていらっしゃる、私の先輩です。松江さん、次回よろしく願いいたします。